ドームのある近代建築十選（8）

作家　門井　慶喜

東京・大手町に勤める「東京駅って、ドームあったんだね」ビジネスマンの友人に、と言われて仰天した。すぐ近くなのになんで見えないかなあと答えようとしたが、たしかに知らなければ見えづらい。なぜなら建物自体が「山」の字をひっぱったように横に長く、背が低く、ドームはその左右にしかないからである。

堂々たる中央部の屋根は、寄棟ふうのスレート葺き。東京駅という紳士は、ドームの帽子を頭ではなく、両肩にちょこんと乗っけているのだ。

完成は大正3年（1914年）。もはや維新から40年以上がすぎ、西洋建築などめずらしくないころ。人々がそれに求めるものは、華麗な装飾、本格的な様式よりもむしろ、ビルディングに代表される実用性のほうに移りだしていた。

ということは、ドームは時代おくれになりはじめた。もしもこの駅舎が30年前に建てられたとしたら、ドームは中央にひとつ、どんと鎮座していただろう。設計したのは典型的な様式派である辰野金吾だが、時代には逆らえなかったのだ。

その意味で、ここにあるのはドームの時代の「終わりの始まり」。あのビジネスマンの友人の言は、じつに本質をついていたのである。

写真　栗原秀夫／アフロ

東京駅（東京・千代田）

文化往来

沖縄の「組踊」300年記念公演

沖縄の伝統歌舞劇、組踊の初演300年を記念した公演が23日、京都芸術劇場春秋座（京都市）で開かれる。組踊の祖、玉城朝薫が創作した5演目のうちの一つ「孝行の巻」を、宮城能鳳ら3人の人間国宝が演じる。

組踊は立方（俳優）と、歌三線や太鼓などの奏者による歌舞劇。1870年代まで存在した琉球王国の国王が代替わりする際、中国が派遣した冊封使をもてなす宮廷芸能として、1719年に芸能全般を監督する踊奉行の朝薫が創始した。主催者の一つ、国立劇場おきなわの嘉数道彦芸術監督は内容について「中国が重んじた儒教道徳を主題とし、ハッピーエンドの筋立て」と話す。

「孝行の巻」は娘が母と弟のために、災いをもたらす大蛇のいけにえになろうとする物語。立方の能鳳のほか、人間国宝である歌三線の西江喜春と太鼓の比嘉聰らが出演する。ほかに、花笠をかぶって独特の染め技法を使った紅型衣装などを展示する。

組踊300年の記念公演は3月9日、国立劇場（東京・千代田）でも演目を変えて開催。年末にはパリでの公演も予定している。

文化

石積み堰堤 重厚な美

◇明治から昭和のダム70基、時経るほどに風格増す◇

川崎　秀明

「石積み堰堤」と言われて、それが何なのか、すぐわかる人は少ないだろう。石積みで囲ったダムのことで、内部にコンクリートやモルタルを流し込んで造る。日本では明治から昭和初期に築かれた。

∴　∴　∴

重文や土木遺産に指定

実際に見ると天然石やブロックが織りなす表情が美しい。西欧の城や大聖堂を思わせる重厚さで、時を経るほどに風格が増す。国内には70あり、多くは重要文化財、土木学会が選ぶ土木遺産などに指定されている。

私は約30年前から、日本の近代化を象徴する石積み堰堤の歴史や技術、装飾的魅力などについて調べてきた。建設省（現国土交通省）のエンジニアとして多くのダムで仕事をし、その間にコンクリート工学で博士号を取った。現在もダム技術に関わっている。

上の写真は豊稔池ダム（香川県観音寺市）。アーチ型の遮水壁が連なり、下から見上げると上流側に覆いかぶさるように湾曲している。そして石積みの美しさ。風雨に磨かれた石の一つ一つが光を乱反射するさまは、いつまで見ていても飽きない。

もう一つの魅力は水流である。下の写真は白水溜池堰堤（大分県竹田市）だが、水紋が日本一とも評されるほど美しい。流れ落ちた水は石の凹凸にはね返って白波を生む。水の勢いは滑らかに減殺され、高さ14㍍以上の瀑布でありながら、直下の減勢池に大きな飛沫や波が立つこともない。設計の妙である。

∴　∴　∴

神戸の布引ダム皮切り

日本で最初にできた石積み堰堤は、1900年に神戸市が築いた布引ダム（広島県呉市）。西洋建築をモチーフにしたような凝った装飾が施され、緻密な石積みが旧海軍の高度な技術を誇示する。花見の時期だけ一般公開され、壮麗で威厳に満ちたたたずまいには息をのむだろう。

ここまで紹介したのはいずれも西日本にある。実は石積み堰堤は瀬戸内地域に多い。瀬戸内の島々が石材の産地であり、腕の立つ石工を確保しやすかったためだ。

石積み堰堤の設計では3人の工学博士の貢献が大きい。多くの都市で上下水道の建設に関わった中島鋭治（1858～1925年）。本庄ダム築造を指導し「日本近代ダムの父」ともいえる吉村長策（1860～1928年）。そして豊稔池ダムなど傑作を残した佐野藤次郎（1869～1929年）。共通するのはサイエンスとアートを融合する意識だった。

ダム建設は橋梁やトンネル、コンクリートなど諸分野の知見を必要とする総合工学で、その理念は「用・強・美」という言葉で表現される。3人は用と強を探求した果てに美に行き着いた。これは現代のものづくりへの示唆を含んでいる。

∴　∴　∴

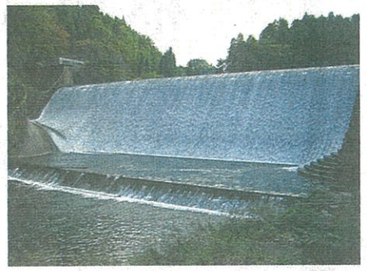
人々が願い託す

石積み堰堤の石碑や銘板には人々が託した願いが刻まれている。「養而不窮（民を養って窮しない）」（神戸市の立ヶ畑ダム）、「人助天（天の力が及ばぬなら、人が天を助けよう）」（同市の十苅ダム）……。中国の古典などにちなむ文言は実に味わい深い。

設計図など資料が残っていない場所も多く、現地で実見して初めて気づくことは多い。民間企業が管理し、立ち入りが制限されているのを粘り強く交渉して見学させてもらったこともある。一般財団法人日本ダム協会が任命するボランティア「ダムマイスター」を務める仲間の協力も得て、調査結果を「日本のダム美」（ミネルヴァ書房）という一巻にまとめた。

石積み堰堤は放っておけば朽ちていく。改修で形が変わってしまった例もある。人々が郷土の宝として愛し、末永く大切にしてくれることを願ってやまない。（かわさき・ひであき＝一般財団法人ダム技術センター首席研究員）

上 豊稔池ダムは連なるアーチが美しい



下 白水溜池堰堤は美しい白波が見もの
＝どちらも安河内　孝撮影

私の履歴書

子どもの頃

五百旗頭　真　⑤

真っ黒な甲斐犬のクロは無二の親友だった。ほぼ放し飼いのクロは遠くにいても私が呼べば草むらを二つに分けて突進し飛びついた。強くて、大きな犬とケンカしても負けなかった。精悍過ぎ、よそ様に迷惑をかけもしたが、私が困ったのは、時に私の靴を夜中くわえて行くことであった。

私には靴は一足しかなかったので、見つからないと裸足で登校する他なかった。「はだしのゲン」はヒロシマだけの現象でなかった。父の友人だったバンドーゴムの社長さんが、お子様たちに一足ずつと靴をプレゼントしてくれた時は本当に嬉しかった。

衣類もすべて兄からのお下がりであり、それがなければどうやらパンツなしで通学していたらしい。

ある「事件」から、そんなことを覚えている。夙川小学校低学年の頃と思うが、同級生の悪ガキが「おまえ今日もノーパンやろ」と私をいじめた。何たる幸運。その日私は真新しい白いパンツをはいていた。憤然として「ノーパンじゃない。何なら見せたろか」とチャレンジした。

私は半ズボンの下からパンツの端を引き出して見せた。その瞬間、ギャーと一層の大騒ぎになった。「こいつ女のパンツはいてる」

私にとって、パンツの有無が問題であり、男女の別は想像もしなかった。お下がりパンツがないのを不憫に思った母が、妹のために買っていたのを、お上がり流用してくれたらしい。

お隣の離れに山崎さんというオジさんが下宿してきた。独り身で夕方など「マーちゃん」と私を大声で呼び、スイカを買ってきて一緒に食べたりした。山陽電鉄勤務で、全交通機関がフリーパスだったので、休みの日などに私を関西一円つれ回ってくれた。

オジさんは戦争末期、特攻する予定だったのが、終戦で間一髪生き延びたという。その後、京都大学経済学部に学び、色々なことを考えていて、面白いことを子どもの私に話しかける人だった。

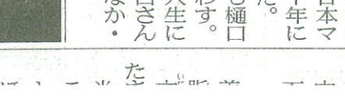
ところがある日突然オジさんが去った。あんなにかわいがってくれたオジさんが、私に背を向けて足早に行ってしまった。人の世の無常を感じた。後で知ったところでは、肋膜炎だか結核だかと診断され、私に病気をうつさないかと気にして挨拶もせずに撤収したという。

うつされたのか、栄養不足のせいか、その後私も胸に影があるとかで、小学3年の時だったか、3カ月ほど自宅静養を命ぜられ休学した。

淋しい日々の救いは、家にあった書物、少年少女名作シリーズだった。クオレ物語や、巌窟王、三銃士、二都物語、シャーロックホームズや怪盗ルパンなどを手に汗して読みふけった。

落第はせずにすんだものの、小学生の私は小さな弱っちい子だった。ただ負けん気は強く、ソフトボールやピンポンも下手なのに熱心だった。兄がたくさんいるせいで、言葉が小学校の友人と違うところがあり、一目置かれたり、「大学教授の息子」とからかわれたりもした。家庭内では、巨大な兄たちに手も足も出なかった半面、妹2人をかわいがるところがあった。気に入った物語を妹に情をこめて何度も読み聞かせて、閉口されたこともあったらしい。

（政治外交史家）



両親と祖母、きょうだい8人全員で（前列左が筆者）

「ノーパンじゃない」

病で休学　負けん気は人一倍

交遊抄

踊るエンジニア

田中　聡

1989年8月の終わり、米ハーバード大学の庭で日光浴をしていると、私と同じように口ひげを生やした日本人青年と出会った。現在、パナソニック専務執行役員を務める樋口泰行さんは、私と同様に会社から派遣されビジネススクールに留学していた。当時31歳で同い年。すぐ打ち解けた。

授業は厳しかった。ビジネスのケーススタディーを毎週10件以上課され、解決策を議論する。販売戦略から生産改善まで多岐にわたる。エンジニア出身の樋口さんは生産に詳しく、教えを請うと素人にも分かりやすく解説してくれた。週末の夜は飲みに繰り出し、ストレスを発散した。樋口さんは自称「歌って踊れるエンジニア」。関西弁の軽妙な語り口で笑いも取っていた。授業中の難しい顔と夜のはしゃぎぶりにはギャップがあり、楽しかった。私が留学を終えてニューヨーク勤務中に、風の便りで樋口さんが会社を退職したと知った。その後は日本ヒューレット・パッカードや日本マイクロソフトの社長を歴任。2017年にパナソニックに復帰し、話題となった。

私はというと三井物産一筋。今でも樋口さんとは年に1回程度、酒を酌み交わす。波瀾万丈の話を聞くと刺激になる。人生に二度はないが、もう一度あるなら樋口さんのような生き方をしてみたい。（たなか・さとし＝三井物産副社長）

DAIKYO
since 1976
建機と人をつなぐ運転室専門メーカー
キャブの開発から量産まで。
大京株式会社
〒923-8581 石川県小松市串町工業団地1-1
大京株式会社　検索